

令和6年1月15日

コロナ禍を経た結核等感染症に関する意識調査について（抜粋版）

香川県東讃保健福祉事務所

I. 調査概要

■ 調査目的

結核等感染症に対する認識や疑問、対応するにあたっての不安、困り事等の現状を明らかにし、効果的な研修及び正しい知識の普及啓発を行うための基礎資料とする。

■ 調査対象

管内の高齢者施設・事業所の職員

■ 調査方法

オンライン調査又は無記名自記式質問紙による調査

■ 調査期間

令和5年6月12日～7月31日

■ 回答状況

有効回答数 203票

■ 調査項目

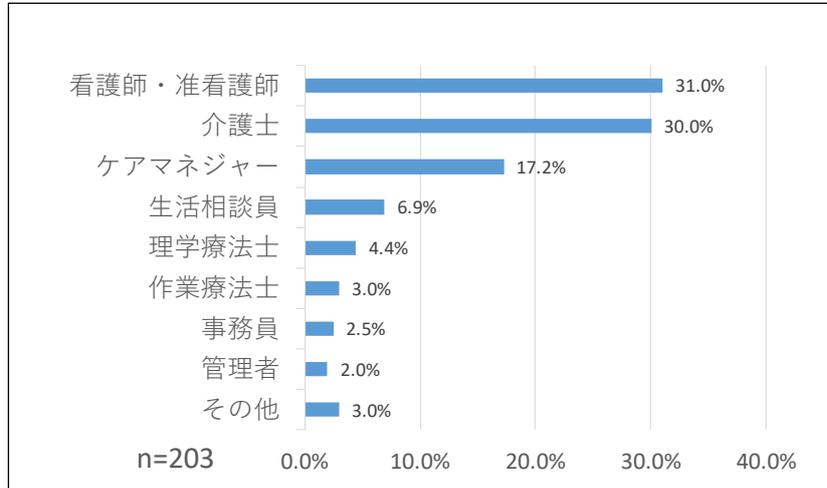
- (1) 回答者の属性について
- (2) 結核を早期発見するための取り組みについて
- (3) 結核患者の受け入れについて
- (4) 結核に関する知識について
- (5) コロナ禍を経た取り組みについて

II. 調査結果

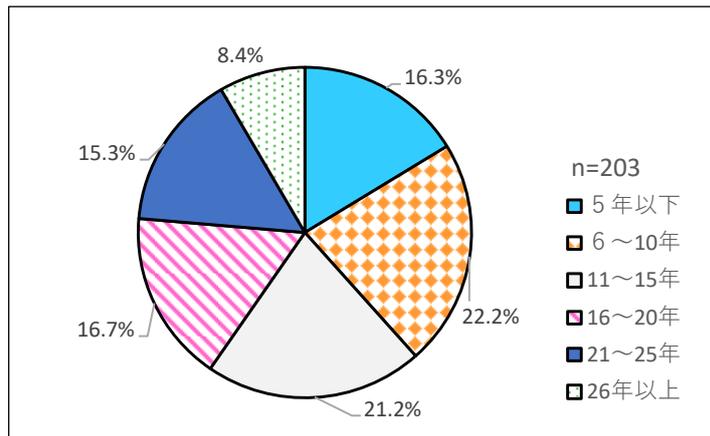
【単純集計】

(1) 回答者の属性について

①回答者の職種

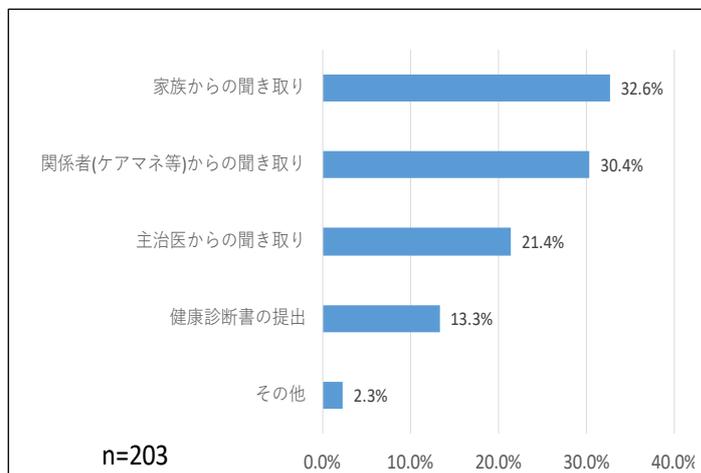


②経験年数（通算）

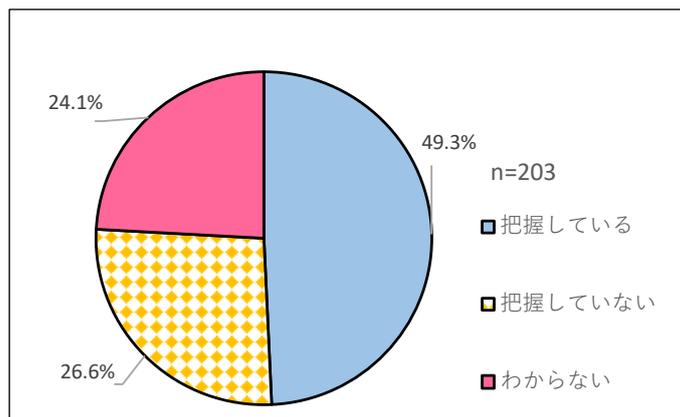


(2) 結核を早期発見するための取り組みについて

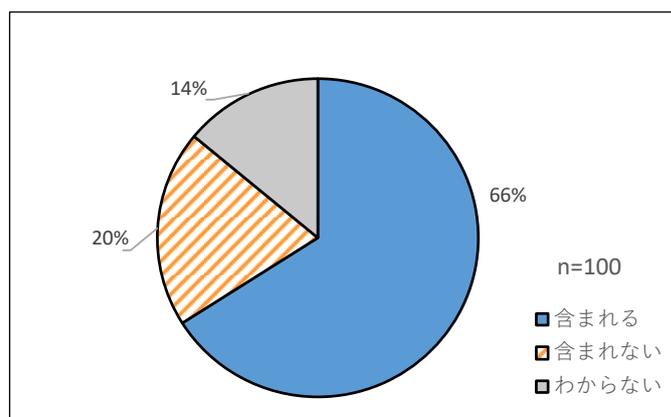
①サービス開始にあたっての入所者（利用者）の健康状態や感染症の既往などの情報収集（複数回答）



②-1 利用者（入所者）の健康診断の結果の把握



②-2 胸部エックス線結果の把握（②-1で把握していると答えた方）

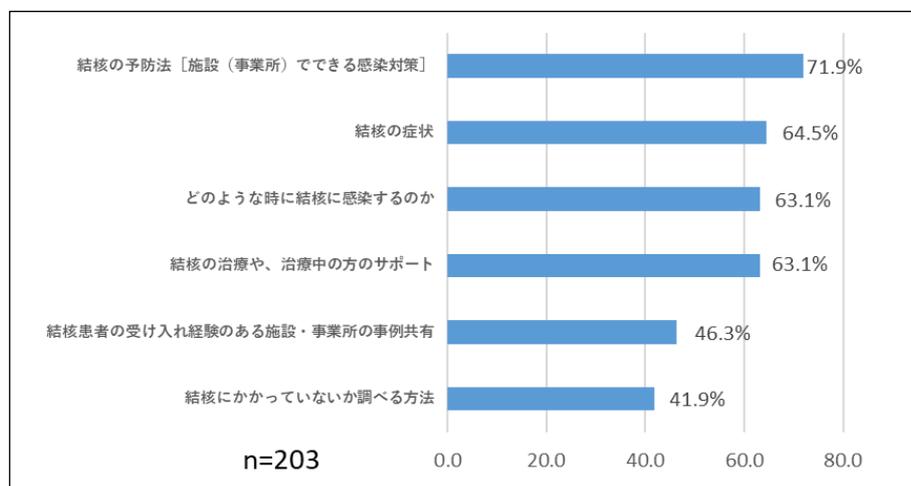


③利用者（入所者）の健康状態を把握する中で、特に感染症に留意して観察等していること（自由記載）

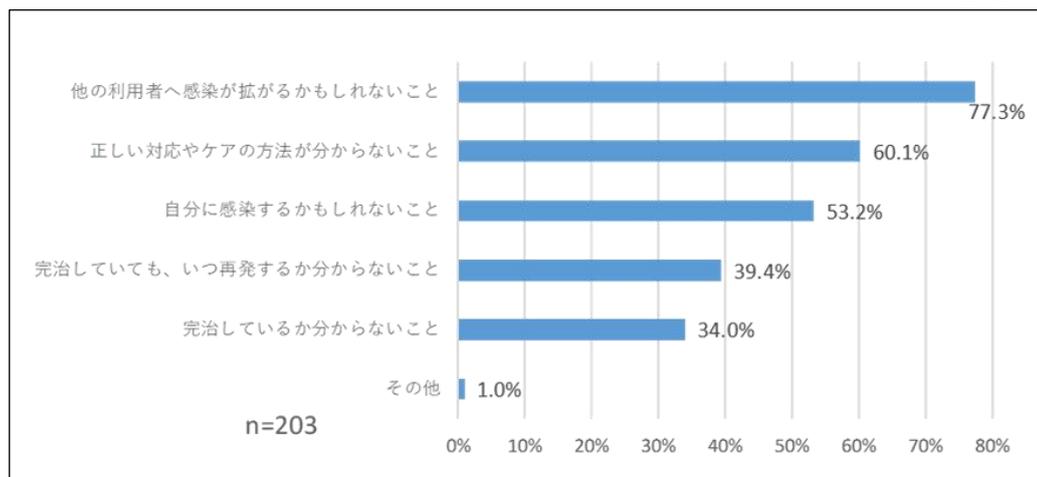
①入所時等には感染症罹患の有無を確認している、②日々の健康状態の把握では、バイタルサインや症状の有無・程度、普段との様子（状態）の比較等を行っているとの記載が複数あった。

(3) 結核患者の受け入れについて

①結核に関する研修を受ける場合、どのような研修を受けたいか（受ける必要があると思うか）（複数回答）



②結核患者の受け入れについて、どのようなことに不安・抵抗・困難感を感じるか
(複数回答)



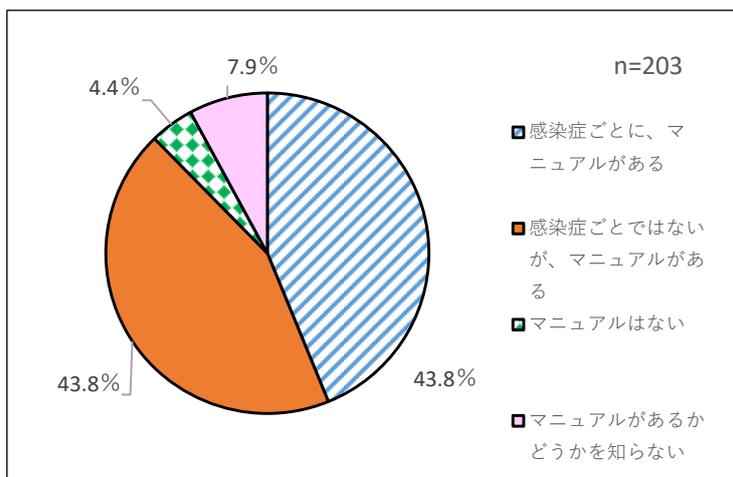
(4) 結核に関する知識について

n=203

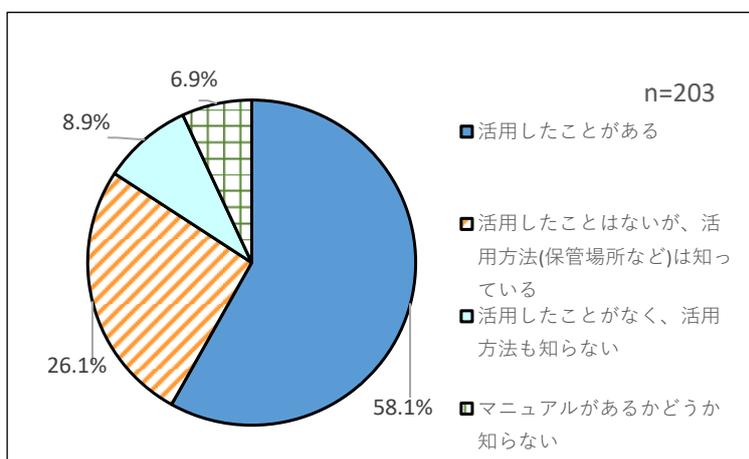
	質問	回答	正答率
1	結核患者の多くは高齢者である。	はい	32.5
2	結核に感染すると、すぐに発病する。	いいえ	66.5
3	結核に感染しても、実際に発病する人は1~2割程度である。	はい	34.0
4	高齢になったり、病気等で免疫力が下がったりすると、感染や発病の危険が高くなる。	はい	87.7
5	喫煙する人は、しない人に比べ、感染や発病の危険が高くなる。	はい	65.5
6	昔、結核の治療をしたことがある人は、二度と結核を発病することはない。	いいえ	72.4
7	潜在性結核感染症とは、結核とは異なった病態である。	はい	16.3
8	結核患者の接触者健診の対象者は、保健所が調査し、判断する。	はい	41.9
9	結核菌に感染するのは、菌を含んだ飛沫(ひまつ)を肺の奥まで吸い込んだときである。	はい	26.6
10	退院して服薬治療中の結核患者の痰の中には、まだたくさんの結核菌がいる。	いいえ	24.1
11	結核の症状は、必ず咳を伴う。	いいえ	42.9
12	結核の症状は、微熱や食欲不振が続くだけのこともある。	はい	34.0
13	結核の発見には、胸部エックス線検査が有効である。	はい	71.4
14	結核の薬は、周囲への感染の危険性がなくなった後も、しばらく飲み続ける必要がある。	はい	63.5
15	結核の薬の服用を、患者個人の判断で中止すると、薬が効かなくなることがある。	はい	71.4
16	退院後の結核患者が施設入所(あるいは事業所を利用)する場合、隔離や治療器具等の特別な対応が必要である。	いいえ	35.5
17	結核が疑われる人の介護をする際には、結核がうつらないよう、ガウンや手袋を着用する必要がある。	いいえ	11.3
18	結核患者が使用した衣服や食器、寝具は、処分や消毒する必要がある。	いいえ	16.3
19	BCGの予防接種を受けていれば、結核に感染することはない。	いいえ	59.6
20	結核の感染拡大防止には、患者にサージカルマスクを着用してもらうことは有効である。	はい	64.0

(5) コロナ禍を経ての取り組みについて

①感染症が発生した場合の対応マニュアルの有無



②感染症のマニュアルの活用について



③地域の保健所が情報発信する場合、どのような方法が望ましいと思うか

